

令和元年度 第3回「帯広市健康生活支援審議会児童育成部会」議事録

日時：令和2年1月31日（金）19時30分～20時20分

場所：市役所10階第2会議室

会議次第

1 開 会

2 議 題

- (1) 令和元年度第2回帯広市健康生活支援審議会児童育成部会議事録の確認
- (2) 第2期おびひろこども未来プラン(原案)に対するパブリックコメントの結果について
- (3) 第2期おびひろこども未来プラン計画案策定に向けた検討について
- (4) 保育所等の定員変更について

3 その他

4 閉 会

配付資料

資料1	令和元年度第2回帯広市健康生活支援審議会児童育成部会議事録
資料2	第2期おびひろこども未来プラン(原案)に対するパブリックコメント結果
資料3	第2期おびひろこども未来プラン(原案)に係る主な修正箇所一覧(案)
資料4	第2期おびひろこども未来プラン【計画案策定に向けた検討資料】
資料5	第2期おびひろこども未来プラン【計画案策定に向けた検討資料】概要版
資料6	保育所等の定員変更(案)

出席委員（19名中13名出席）

成田委員、真井委員、明神委員、樋渡委員、永井委員、
伊賀専門委員、松山専門委員、宮崎専門委員、佐藤専門委員、
加藤部会員、南出部会員、及川部会員、吉澤部会員

事務局

広瀬こども未来部長、野澤こども未来部企画調整監、
郡谷こども課長、星野保育担当課長、戸田課長補佐、
村木子育て支援課長、金田課長補佐、今青少年課長、三好児童会館長

令和元年度 第3回「帯広市健康生活支援審議会児童育成部会」議事録
(令和2年1月31日 19:30～20:20)

<p>1. 開 会 (事務局)</p>	<p>改選委員の紹介 北海道民生委員児童委員連盟帯広支部長が、松田安臣支部長から樋渡康支部長へ変更。</p>
<p>2. 議 事 議題（1） (事務局)</p>	<p>(1) 令和元年度第2回帯広市健康生活支援審議会児童育成部会議事録の確認 (資料1の説明) 10月25日に開催した令和元年度第2回帯広市健康生活支援審議会児童育成部会の議事録について内容を確認。</p>
<p>〈部会長〉</p>	<p>修正なしのため、市ホームページへ掲載する。</p>
<p>議題（2） (事務局)</p>	<p>(2) 第2期おびひろこども未来プラン（原案）に対するパブリックコメント結果について (資料2の説明) 第2期おびひろこども未来プラン（原案）に対し、市民の方から意見を幅広くいただくため、令和元年11月25日から12月24日までパブリックコメントを実施したところ、①児童憲章について掲載、②子育てに関する積極的な情報発信の要望、③子育てに対する安心感を得られる理由として親の学びや交流の場の必要性を追加、④一時保育利用機会の拡大、⑤子育てに悩みや不安を抱える背景に親自身の経験不足を追加、という5件（4名）の意見が寄せられた。</p>
<p>〈部会長〉</p>	<p>これらの意見に対して市の認識や考えを示し、プランの修正や意見として参考とするなど、対応していく考え。 今の説明に対し、意見などあるか。 ———質問や意見など特になし———</p>

<p>議題（３）</p> <p>（事務局）</p> <p>〔委員〕</p> <p>（事務局）</p> <p>〈部会長〉</p>	<p>（３）第２期おびひろこども未来プラン計画案策定に向けた検討について</p> <p>（資料３、４、５の説明）</p> <p>前回１０月２５日の児童育成部会において、委員の皆さまからいただいた意見を反映させて作成した原案から、議題（２）でも説明したパブリックコメントの実施結果や会議開催日の変更、定員の変更、委員の変更などについて、主な修正箇所を一覧として資料３にまとめた。</p> <p>資料４については、第２期おびひろこども未来プラン（計画案）を策定する資料として、それらの修正箇所等を反映したものとなっている。</p> <p>本日配付した資料と事前に委員の皆さまへ送付した資料において、一部変更となっている点があるため、机上に正誤表を配布している。</p> <p>資料５については、第２期おびひろこども未来プラン（計画案）を策定する資料の概要版としているもの。</p> <p>修正箇所について具体的に説明してほしい。</p> <p>パブリックコメントで寄せられた、③子育てに対する安心感を得られる理由として親の学びや交流の場の必要性を追加という意見に対し、事前送付した資料では、子育てしやすい環境の一つとして「親子の交流の場」と表現していたが、庁内で協議した結果、親同士の交流をイメージできる表現の方が適切との意見があったことから、「子育て家庭の交流の場」へ訂正したもの。</p> <p>もう一つは、幼稚園等の教育認定に関する表を提示するページに、保育所等の保育認定に関する表を誤って提示していたため、訂正したもの。</p> <p>他に質問や意見などあるか。</p> <p>———質問や意見など他になし———</p>
--	--

<p>議題（４）</p> <p>（事務局）</p> <p>〔委員〕</p> <p>（事務局）</p> <p>〔委員〕</p> <p>（事務局）</p>	<p>（４）子ども・子育て支援事業等に係る必要量と確保方策について</p> <p>（資料６の説明）</p> <p>待機児童や特定の保育所を希望するが入所がかなわない私的待機児童については、年々増加傾向にある。子育て世帯へのアンケート結果から推計した子ども・子育て支援事業計画における量の見込みについて、児童全体数は減少傾向にあるが、女性の社会進出と早期の職場復帰により、低年齢児を中心とした保育需要は今後も一定程度高い状況が続く見込み。</p> <p>それらの需要に対する本市の確保方策については、認可保育所の定員を３歳以上児から３歳未満児へシフトし、低年齢児の受入体制を充実させる。それに加えて、幼稚園から認定こども園への移行により、低年齢児の受入れ枠を確保していく考え。</p> <p>私的待機児童が今年度増加している状況だが、何か原因はあるか。</p> <p>今年度だけ特定の原因があるわけではなく、低年齢児が年度当初から例年以上に入所しており、年度途中の入所が難しい状況が私的待機児童の増加につながっているものと認識している。</p> <p>待機児童の解消へ向けた低年齢児の受入れについては、幼稚園や認定こども園だけは体制を整えるのは難しい現状がある。特に０歳の保育は簡単なものではないが、市として他に対策はないのか。また、保育枠を増やすための私学助成幼稚園から認定こども園への移行はスムーズに行われるのか。</p> <p>今後５年間においては、令和２年度に一部の幼稚園が認定こども園へ移行するほか、施設改修を実施した認定こども園による低年齢児の受入れ枠を拡大するなどにより、一定程度の受入れ枠は確保可能と推計している。この他、認可保育所の定員の弾力的運用や、認可外保育施設の協力を得ながら、高まる低年齢児の保育需要に対応していきたい。</p> <p>幼稚園から認定こども園への移行については、今後の保育需要を見極め、施設の希望も把握しながら検討していく考え。</p>
--	--

<p>〔委員〕</p>	<p>10月からの幼児教育無償化の影響により、利用者が幼稚園を選択する上で傾向が変わってきたことはあるか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>大きな変化はないと認識している。</p>
<p>〔委員〕</p>	<p>無償化以前は、施設で異なる利用料も施設を選択する項目の一つだったが、無償化により全施設同じ条件となり、利用者はどのような視点で施設を選択するようになったのか。</p>
<p>〔委員〕</p>	<p>無償化により施設選択において極端な偏りや大きな変化はないが、各施設における教育・保育理念や運営体制がより重要とってくるものと認識している。</p> <p>また、無償化となったことで、利用者が安易に長時間預けることとなる危惧はある。子育てや幼児教育・保育について、こども課や各施設において丁寧な説明により保護者理解が必要となる。</p>
<p>3. その他</p>	
<p>〈部会長〉</p>	<p>委員の皆さんや事務局から何か報告等あるか。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>今後のスケジュールについて、委員の皆さんにご意見いただいた第2期おびひろこども未来プランについては、今後市議会の所管委員会における審議後に成案となる予定。</p> <p>成案については、次回2月19日に予定している健康生活支援審議会児童育成部会において委員の皆様へ報告させていただく。</p> <p>この他、次回の会議においては、令和2年度予算や帯広市の組織再編について説明する予定。</p>
<p>〈部会長〉</p>	<p>他になければ第3回帯広市健康生活支援審議会児童育成部会を閉会する。</p>
<p>4. 閉会</p>	